

DAIKEN グループ

CSR 報告書 2012



ずっと暮らす。
地球と暮らす。
「くらし価値」創造企業 DAIKEN

大建工業株式会社

本社 〒530-8210
大阪市北区堂島1丁目6番20号(堂島アバンザ)22F
<http://www.daiken.jp/>



発行 2012年7月

[175-06] KK2012.07 [FOS/SI] (P6.1-05)

大建工業株式会社

人と空間と環境の調和を、 環境発想のものづくりで実現する。 それが、DAIKENグループのCSR。

DAIKENグループでは、「人と空間・環境の調和をテーマに顧客本位の経営を行う」という経営理念を実践するため、「中期経営計画」とともに「中期CSR活動計画」を策定。「企業行動基準」に基づいて従業員一人ひとりがCSR活動に取り組んでいます。



【経営理念】

人と空間・環境の調和をテーマに顧客本位の経営を行う

【中期経営計画】(2011年度～2015年度)

ビジョン ずっと暮らす。地球と暮らす。
『くらし価値』創造企業DAIKEN

方針 大転換・大躍進
～純利益:100億円への挑戦(売上高:2,000億円)～

【中期CSR活動計画】(2011年度～2015年度)

ビジョン 資源循環型企業のリーディングカンパニーとして、人と環境が共生できる持続可能な社会の実現を目指します。

方針 社会的使命として「震災復興」に全社を挙げて取り組み、エコ素材の生産・供給をとおし社会に貢献する。

【企業行動基準】

1	法令等の遵守	4	企業情報の開示	8	反社会的勢力および団体との対決
2	安全・安心で、社会に有用な商品・サービスの提供	5	環境問題への積極的取組	9	国際協調
3	公正な取引	6	社会貢献	10	周知徹底
		7	働きやすい職場環境の実現	11	率先垂範

※企業行動基準の全文は、Webサイト「会社情報」に掲載しています。

編集方針

本報告書は、DAIKENグループのCSRに対する取り組みや考え方をステークホルダーの皆様にご理解いただけるよう、わかりやすい編集を心がけ、具体的な活動事例を中心に紹介しています。より詳細な取り組みにつきましては、当社Webサイトに随時掲載していきます。

- 対象期間: 2011年度(2011年4月1日～2012年3月31日)
ただし、一部2012年6月までの情報を含みます。
- 報告範囲: 大建工業(株)および大建工業グループ
環境パフォーマンスデータは、一部範囲が異なります。
大建工業(株)を示す場合は「DAIKEN」、大建工業グループを示す場合は「DAIKENグループ」と表記しています。
- 発行月: 2012年7月
- 前回発行月: 2011年8月
- 次回発行月: 2013年7月(予定)

Contents

DAIKENグループのCSR	1
トップメッセージ	3
事業展開	5
[TOPICS]	
①エコ素材の生産・供給をとおした社会貢献	7
②地球温暖化防止と木材の循環利用	9
[CSR活動報告]	
①お客様のために	11
②地域社会のために	17
③従業員とともに	21
④マネジメント	23
⑤地球環境のために	25
CSR活動の取り組み状況	29
会社概要	30

アンケートWebサイトより、本報告書に対するご感想をお聞かせください。▶ https://www.daiken.jp/form/csr_enq.html



ずっと暮らす。地球と暮らす。 『くらし価値』創造企業 DAIKEN

新たなビジョンのもと DAIKEN グループの使命を果たし、
より良い地球の未来のために貢献していきます。

代表取締役・取締役社長

澤木良次

東日本大震災について

改めまして、東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り致します。

この大震災は、我々日本人に自然の力の恐ろしさをまざまざと見せ付けた一方で、地域での連帯や、人と人との繋がりなど、日本人が昔から大切にしてきた“相手を思いやる気持”“絆”の重要性を再認識させる機会となりました。そして、固い絆で結ばれた方々が、一致団結して地域の再生に挑戦する姿、そのパワーに、私たちは大いに勇気付けられました。

今、日本は戦後最大の危機と言われ、復興に向けた長い道のりがあります。しかし、着実に進み始めています。DAIKENグループでは、被災地の早期復興に向けて、仙台市に「復興支援室」と「ダイケンエンジニアリング・仙台支店」を設置し、現地に根を下ろしたきめ細かい営業活動を展開

してきました。また、“仙台市”“石巻市”と“いわき市”にそれぞれショールームをオープンし、“地震に強い住まいの情報発信基地”として現地の方々に活用いただいています。引き続き、当社グループとして何ができるのかを真摯に考え、実行に移していきたいと思っております。

DAIKENグループのCSR

当社グループは、事業活動そのものをCSR活動に直結させることが企業活動を社会への貢献につなげる本筋であると考えております。この考えのもと、被災地復興に向けた直接的な活動と並行して、私たちが取り組まなければならないことは2点あると考えております。

一つは、『安全・安心で健康な“住まい”づくり』を追求すること、そしてもう一つは『有事に備える』ことです。

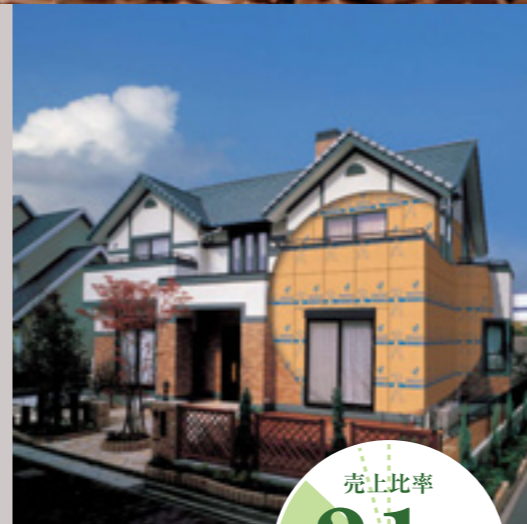
震災によって、住まいに対する消費者の意識も大きく変わり、家族の生命と財産を守るため、耐震性能や耐火性能など住まいの安全・安心を重視する傾向が顕著になりました。

住宅業界に携わる当社グループの使命は、こうした安全で安心、そして健康で快適な住まいづくりを実現する製品や構法を開発し、提案し、供給し続けることにあります。その責任は非常に大きく、重いということをグループ全社員の胸に刻み込んでいきたいと思っております。

また、“エコ素材や暮らし価値を提案する商品群を供給し続けること”、“事業を継続すること”は企業に課せられた重要な責任の一つです。即ち『有事に備えること』です。私たちは、昨年12月に有事に備えた「大建工業グループ事業継続計画策定ガイドライン」を策定しました。今後は、このガイドラインに基づき重要業務の継続に向けた体制・準備をしっかりと整えていく所存です。

昨年度の新設住宅着工数は約84万戸で、2012年度も同水準で推移することが予測されます。このような非常に厳しい経営環境の下で、選ばれる企業であるためには、環境発想の商品づくりから生産・販売、提案活動まで、これまで以上に「消費者の目線」で実行していくことが最も重要です。

DAIKENの創業は、1945(昭和20)年9月。終戦直後の荒廃と混乱の中、「復興資材として木材・製材品を生産し、日本の社会や国民の生活の再建に役立ちたい」という先人の熱い志のもと、各種木製品と床材の製造に着手したのが始まりです。私たちは、創業期の熱い思いを受け継いで資源を重視したものづくりの考えのもと、「木材資源の有効利用」と「未利用資源の有効活用」を図った資材開発と供給を行ってまいりました。今後は、国産材の活用にも注力し、引き続き環境重視の持続可能な社会づくりに貢献していきたいと思っております。



住空間事業



エコ事業



エンジニアリング事業



売上比率は、2011年度の連結売上高に基づくもので、その他の事業が6%あります。

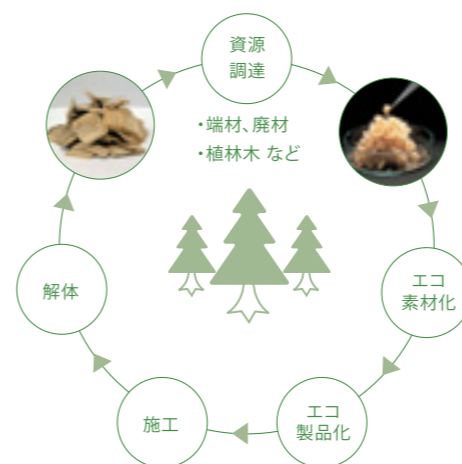
●強くやさしい住まいをつくる建材で、
家族の笑顔を守ります。

●暮らしを豊かにする建材で、
家族の毎日を彩ります。

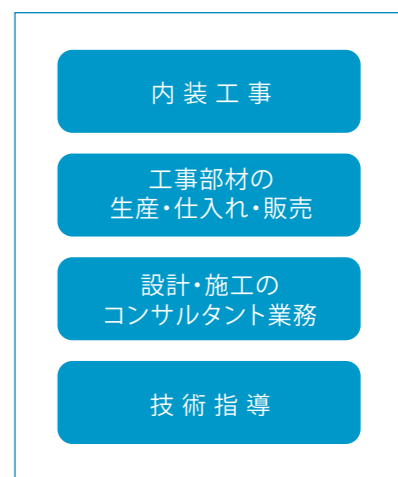


●資源循環型のものづくりで、
環境のために
できることを広げます。

●未利用資源を活用し、
地球の明日を見つめます。



●ビルや公共施設の
空間づくりで、
街に快適を届けます。



DAIKENグループは、3つのコア事業で新たな「暮らし価値」を創造します。

さまざまな場所で活躍する DAIKENの『エコ素材・エコ製品』

DAIKENは、エコ素材を建材や産業用途に幅広く活用できるよう、
断熱・吸音・調湿・耐震性などの機能性を
持たせて製品化しています。



《エコ素材》			
	インシュレーションボード	IB	建築解体時の廃木材などを原材料に使用した木質繊維板。主に、畳床に使われています。
	MDF (中質繊維板)	MDF	製材端材などを原料に使用した木質繊維板。表面・木口面が最も滑らかで化粧加工が施しやすくなっています。
	ハードボード	HB	インシュレーションボードと同様、建築解体時の廃木材などを原材料に使用した木質繊維板。表面が硬く、耐水性と剛性に優れています。
	火山性ガラス質複層板 & ドライライト	DIL	再生資源であるスラグウールと、未利用資源である火山灰シラスを有効活用した無機質パネル。
	ロックウール無機板 & ダイロートン	DL	再生資源であるスラグウールをボード状に成型したもの。
	エコ台板	エコ台板	植林木合板と特殊MDFを用いた床基材。

《住宅用建材として使われている主なDAIKEN製品》					
壁材	天井材	内装下地材・外装下地材	床材・畳	室内ドア・収納扉・収納セット	造作部材・階段
	ダイケンボード木質断熱天井材 しずか	吸ホル養生ボード 屋根下地 ヤネシタボード アセタス・耐震ボード ビルボード、エコヘルボード	豊風フロア おくだけスパーN 豊風フロア ラグリフロアー 豊風フロア たたみフロアー 畳 ダイケン畳 健やかくん	調湿壁材 収納ボード・押入ボード	
デザイン腰壁 システリアパネル デザイン壁材 羽目板ソフト 壁パネル・腰パネル NewレセプトR III 音響用インテリア壁材 サウンドデザインウォール	装飾天井材 羽目板ソフト		リモデル用化粧床材 フォレスティア6T	リビングドア R IIIシリーズ クローク収納X10 R IIIシリーズ 玄関収納 R IIIシリーズ	システム造作部材 R IIIシリーズ リモデル階段部材 リモデル造作材
音響用インテリア壁材 オトビタ					
不燃化粧壁材 プレミアート	ドライライト不燃天井材 シーリングアート	耐震改修パネル かべ大将 外装下地材 ドライライトMS ドライライト軒天井ボード ノキライト			
調湿建材 さらりあーと	ダイロートン健康快適天井材シリーズ ダイロートン音響健康快適天井材シリーズ 調湿建材 さらりあーと				
			環境配慮床材 フォレスグランド、フォレスハード フォレスティア、グラファイアート		

地球のために。未来のために。 木質資源を循環的に利用する。

DAIKENグループは、地球温暖化防止に関わる木質材料の優位性を踏まえ、木材の循環利用に取り組んでいます。木材は持続的に利用でき、**カーボンニュートラル**という特徴があります。木材資源の利用を進めることは化石資源の枯渇を防ぐとともに、資源循環型社会の構築、地球温暖化の防止につながります。

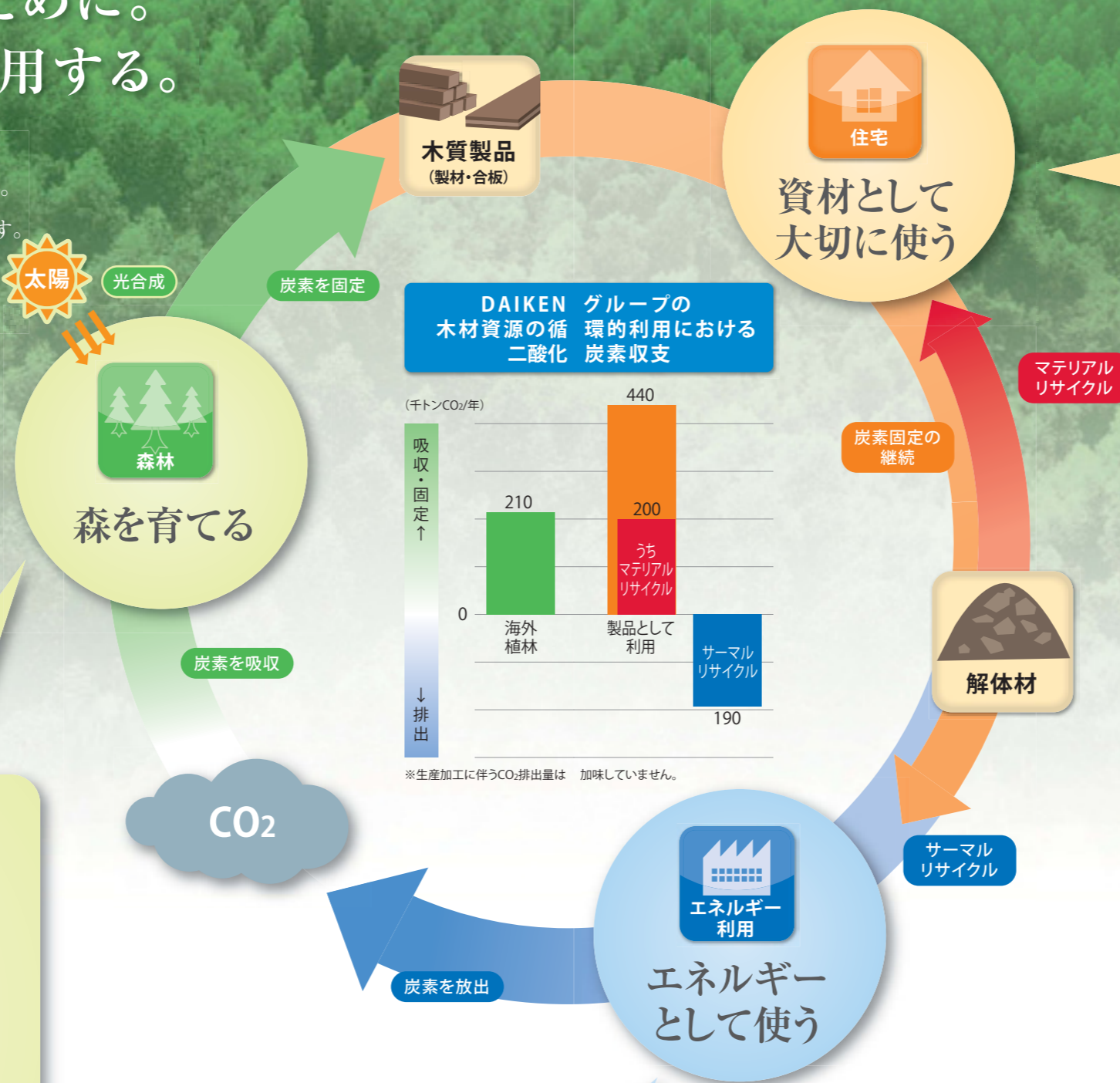
カーボンニュートラルとは
木材などの再生可能資源の燃焼による炭素放出は、地球全体での炭素収支においてプラスマイナスゼロであるという考え方。

海外植林事業による CO₂吸収・固定量約210千トンCO₂/年

樹木は光合成の働きにより、地球温暖化の原因と言われる空気中の二酸化炭素を吸収し、炭素として木材中に固定化します。森林を適正に整備し、元気のある森林を維持することは、地球温暖化対策につながります。



植林地	マレーシア国サラワク州
植林事業者	ダイケンサラワク社
樹種	アカシアマンガム
植林総面積	4,250ha
植栽総本数	約470万本
二酸化炭素吸収・固定量(自社試算)	約210千トンCO ₂ /年(2011-2012年)

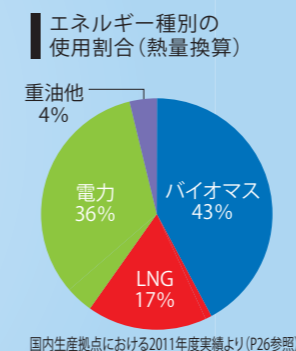


サーマルリサイクル利用による CO₂排出量約190千トンCO₂/年

カーボンニュートラルによるCO₂削減量 約48千トンCO₂/年
バイオマスエネルギー利用で代替した重油量は約18千kL/年(熱量換算)で、カーボンニュートラル理論に従えば、重油を利用した場合に排出されるCO₂量(約48千トンCO₂/年)を削減したと見なすことができます。



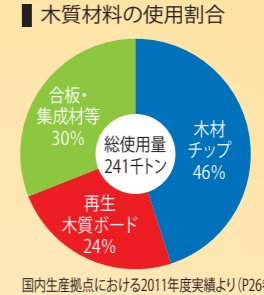
岡山大建工業(株)のバイオマスボイラー



製品によるCO₂固定量 約440千トンCO₂/年

うち、マテリアルリサイクル利用によるCO₂固定量約200千トンCO₂/年

木材を、木造住宅や家具のような形で長期間使用することは、木の中に固定された炭素を大気中に戻さず長く貯蔵できるので、森林を育てることと同様の効果を生みます。



■二酸化炭素(CO₂)固定量の計算方法
二酸化炭素固定量=木材重量×炭素含有率×二酸化炭素換算係数
木材の炭素含有率:0.5
二酸化炭素換算係数:炭素と二酸化炭素の分子量の比率(44/12)

① 森林資源を持続的に使う

森林認証材、植林木、国産材、再生木質ボードの利用を推進することは、森林資源の持続可能な利用につながります。特に、国産材の利用推進は、輸送過程における環境負荷の抑制につながります。



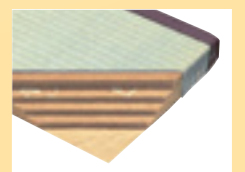
「木づかい運動」のロゴマーク
取得製品
●フォレスハード
●日本の樹シリーズ

「木づかい運動」とは、林野庁が推進している国産材利用推進のための国民運動で、国産材を積極的に使うことで山村を活性化し、CO₂を吸収する元気な森林づくりを進める運動。

② 木材をより長く使う

製材端材や建設解体材を木質繊維板としてマテリアルリサイクルすることにより、木材の炭素固定化機能を継続させることができます。

木質繊維板を用いた製品
●おくだけスーパーN
●ダイケン健やか畳床
●吸ホル養生ボード
●アセダス・耐震ボード
●木質断熱天井材 しずか など



ダイケン健やか畳床

常に、お客様をみつめて、耳を傾けて。
私たちのものづくりの基本です。



内覧会



音響体感ツアー（東京ショールーム）



仙台ショールームオープニングセレモニー



広域展示会



大阪ショールーム



Bex Asia 2011 (シンガポール)



ドア展示コーナー（仙台ショールーム）



「置もて」TV取材風景

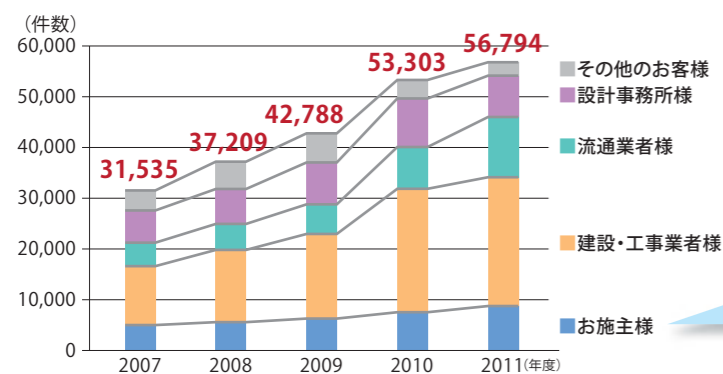


工場グリーンシミュレーションコーナー

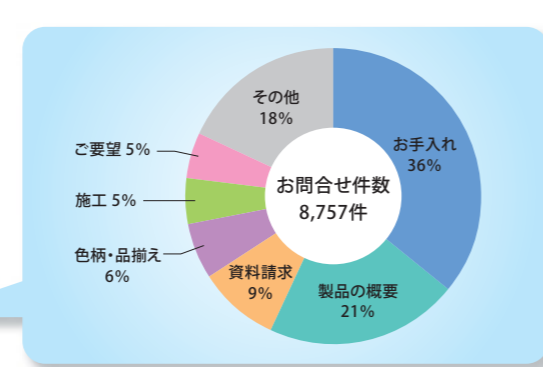
■ お客様ニーズをお客様満足へ

DAIKENグループでは、お客様にご満足いただける商品・サービスを提供できるよう、お客様センターやショールームでいただいたお客様からのお問合せやご要望を分析し、次の製品やサービスの改善に活かしています。

■ お客様からのお問合せ件数の推移

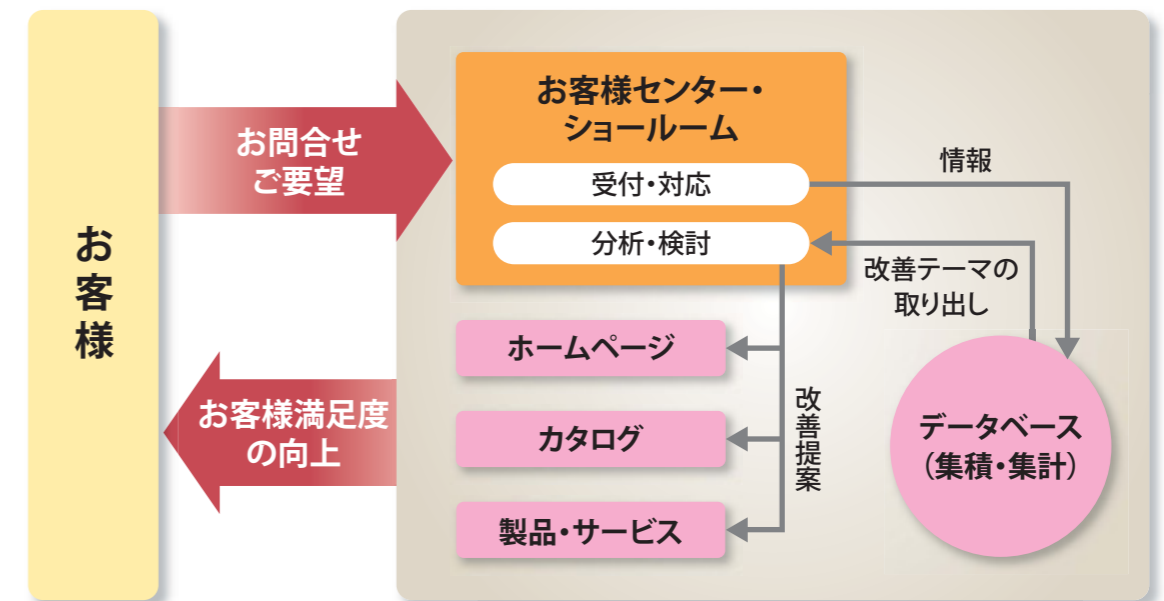


■ お施主様からのお問合せ内訳 (2011年度)



「お客様センター」に寄せられた声の内訳

■ お客様からのお問合せ・ご要望を製品・サービスに活かすフロー



お客様目線のものづくりのために

安全・安心を支える仕組み

DAIKENグループは、「製品の安全に関する基本方針」に基づいて「製品安全行動計画」を運用し、安全に機能し、安心して使用できる製品の提供に取り組んでいます。



※製品の安全に関する基本方針の全文は、Webサイト「会社情報」に掲載しています。

ショールームで得た情報を製品開発へ ～「日本の樹シリーズ」社内／社外提案・ヒアリング会開催

2011年12月、お客様の声を反映した製品開発を目指して、2012年5月発売の新製品「日本の樹シリーズ」の提案・ヒアリング会を東京ショールームで開催し、154名のお客様にご参加いただきました。



グループ全体で品質マネジメントシステムを強化

2012年1月、大建工業(株)の本社・営業部門で取得しているISO9001認証の適用範囲を国内のグループ13社に拡大し、グループ全体で品質マネジメントシステムの管理体制強化・改善を進めています。



※ISO認証取得情報の詳細は、Webサイト「会社情報」に掲載しています。

品質を守る人材育成

当社グループの設計や品質保証などに係わる部門を対象に、品質設計力と品質・環境マネジメントシステムの問題発見能力向上を目的とした研修を、外部講師を迎えて実施しています。

研修名	実施時期	受講者数
設計品質向上	2011年 7月	19名
設計・開発マネジメント力向上	2011年12月	15名
有効性監査	2012年 2月	31名

新発想でモノづくり

～キーワードは、安心・安全(耐震)、高齢者対応、国産材、省エネ

2012年2月、各事業部の開発・企画担当者、開発研究所、デザイン研究所の担当者一同が集まり、当社の強みを発揮できる新製品企画案を策定。この企画案を軸に実用化検討を進めています。

お客様目線の情報発信のために

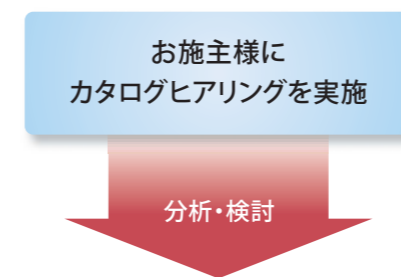
利用するすべての人が 使いやすく、わかりやすいと感じられるホームページに

住まいづくりのノウハウからプロ向けの情報まで、また、新築にもリフォームにも役立つ情報を網羅。知りたい情報を知りたい切り口で調べられるよう、利用者の視点に立ったホームページづくりを進めています。

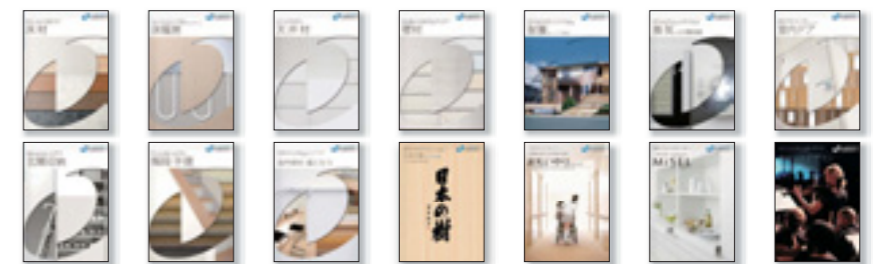


お施主様が見て、納得して、建材を選んでもらうカタログに

建材のカタログは、お施主様にはわかりにくいものでした。お施主様にも建材を選びやすいカタログづくりを進めています。



お施主様向けカタログが充実しました。



製品をあらゆる面から検討し、選択できる構成にしました。

01 機能を知る → 02 部位別おすすめ → 03 デザインを見る → 04 製品を決める製品を見る



お客様との接点の充実

被災地密着型のコラボレーションショールーム開設

復興が急がれる被災地に近い場所に住まいの相談窓口を設けようと、TOTO・DAIKEN・YKK APおよび(株)ノーリツの4社が協力して、宮城県石巻市に「石巻コラボレーションショールーム」を2011年11月にオープンしました。また、2012年2月には、福島県いわき市に「いわきコラボレーションショールーム」をオープンしました。



大阪ショールームにて収納セミナーを開催

2011年9月、「リモデルクラブ大阪店会TDYリモデルフェア」にて、「整理収納アドバイザー」の資格を有する当社社員を講師とした「収納セミナー」を開催。約60名の方に、当社のMiSELを使った収納方法の演習を通じて収納のコツやテクニックを紹介し、喜んでいただけました。



国内最大級の木製室内ドア工場を公開
工場グリーンリモデルフェアin井波を開催

2011年8月、昨年に続き2回目となる「工場グリーンリモデルフェアin井波」を開催。地域住民の方々や従業員の家族など約1,400名が来場され、室内ドアの生産ライン等の見学を通して、当社のモノづくりへの理解を深めていただきました。



DAIKENのこだわりを店舗・施設関係者にPR
～ジャパンショップ(JAPAN SHOP 2012)に出展

2012年3月6日～9日の4日間、店舗・商業施設関連では国内最大の展示会『ジャパンショップ(JAPAN SHOP 2012)』が東京ビッグサイトで開催され、当社は店舗・施設向け商品を出展。来場した多くの業界関係者や、海外のクライアントから注目を集めました。



お取引先との接点の充実

リフォーム事業の活性化のポイントを学ぶ
～ダイケンホーム&サービス(株)が「リフォーム事業勉強会」開催

2011年6月、ダイケンホーム&サービス(株)は、ハウスメーカーのリフォーム担当者様に講師としてご参加いただき、「リフォーム事業勉強会」を開催。特約店様、(株)スマイルアップ等、リフォーム関連の営業部門、住空間事業販売推進部などから32名が参加しました。



全国各地で情報交換会を開催

当社から、行動を消費者目線に変え、大転換・大躍進を図っていくことを宣言。特約店・販売店様からは、今後の市況の見通しや当社に対するご要望などを発表いただくなど、双方向の情報交換を行いました。



流通業者様主催
「住まいの耐震博覧会」に出展

当社は耐震部材をはじめ、「おもいやりシリーズ」や「日本の樹シリーズ」を出展。特に耐震コーナーには、絶えず来場者が訪れ熱心に係員の説明に耳を傾けるなど、東日本大震災後の地震への備えに対するお施主様の関心の高まりが感じられました。



地域で生きる企業として、
地域への貢献活動にも力を入れています。



三重ダイケン河芸 海岸清掃



三重ダイケン久居 夏祭り



三重ダイケン久居 小学生工業体験



井波地区のギネス挑戦に参加



高萩まちなかワンダーランド



支援物資として断熱ボード搬入

東日本大震災復興に向けた支援活動

被災地支援ボランティア活動に参画

2011年5月26日～6月1日の7日間、大建工業労働組合書記長が東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県・宮古地区で連合・UIゼンセン同盟の被災地支援ボランティア活動に従事しました。



東日本大震災における寄付活動

2011年3月	被災者の方々の救援や、被災地の復興に役立てていただくため、日本赤十字社を通じて義捐金1,000万円を寄付。
2011年3～5月	被災地への「断熱ボードの寄贈」を継続実施。(各自治体の指示に従い、延べ3万枚を30箇所に直接配送しました)
2011年5月	ダイケンサラワク社、ダイケンミリ社で東日本大震災の義捐金を募り、日本赤十字社を通じて45万円を寄付。
2011年6月	全国のショールームにて東日本大震災の義捐金を募り、日本赤十字社を通じて80万円を寄付。
2011年9月	岩手県大槌町のボランティア用ビジネスホテルに床材、木質ドアを寄贈。
2011年10月	東日本大震災の義捐金として井波グリーンリモデルフェアのバザー収益を富山県南砺市へ寄付。
2012年3月	岩手、宮城、福島 の3県の震災孤児・遺児の支援基金に、それぞれ737,300円を寄付。

岩手県より被災地への復旧・復興支援に対し、感謝状を授与

2012年1月、岩手県から当社グループが東日本大震災発生直後より行った復旧・復興の支援に対して感謝状を頂きました。



復興支援イベントにDAIKENのキャラクター“えこるん”登場
地域とふれあい活力づくり

2012年3月、茨城県高萩市で開催された震災復興支援イベント「高萩まちなかワンダーランド」にDAIKENのマスコットキャラクター“えこるん”が参加しました。ステージで催された「ゆるキャラ大集合」に登場した“えこるん”は、地域のみなさまとのふれあいを通じて復興への活力づくりをお手伝いしました。



えこるん

地域貢献

ガンバ大阪の応援を通じ、スポーツ振興に貢献!
～ユニフォームスポンサー契約

大阪に本社を構える企業として、ガンバ大阪の応援を通じ、地元大阪のスポーツ振興と活性化に貢献したいとの考えから契約締結を決定しました。



©ガンバ大阪

近隣高校の社会見学で地域貢献
～東部大建工業(株)高萩工場

2011年9月、東部大建工業(株)高萩工場は、茨城県立磯原郷英高等学校の依頼を受け、第1学年生徒(73名)を対象とした職業意識向上と進路実現を図る指導の一環として、工場見学・講話会を行いました。



小学生30名が
床材工場での工業体験

三重県津市主催の工場見学および体験学習「わくわく津市の工業体験2011」に協力し、2011年7月三重ダイケン(株)久居工場で津市の小学5年生、6年生30名を対象に体験学習を行いました。参加した子どもたちは、床材の製造工程の見学や、品質を確認するための実験などに熱心に取り組んでいました。



サラワク州植林事業関係者が
ダイケンサラワク社植林地を訪問

マレーシア

2011年10月、サラワク林業局をはじめサラワク州の植林事業関係者31名が植林木の伐採状況視察のため、ダイケンサラワク社の植林地を訪れました。



余姚市の企業誘致活動
「2011日本・寧波週間活動」に協力

中国

寧波の企業誘致活動「2011日本・寧波週間活動」に協力するため、2011年11月、余姚(日本)新興産業推奨会に当社グループから藤井副社長、岩本専務、飛田董事長が出席しました。

カンタベリー-JAPAN DAY開催
～ダイケンニュージーランド社がメインスポンサーとして協力

ニュージーランド

東日本大震災から1周年となる2012年3月11日、クライストチャーチ大地震、東日本大震災の復興を願うイベント「JAPAN DAY」がクライストチャーチ市内で開催。ダイケンニュージーランド社はメインスポンサーとして協力しました。また、今年からクライストチャーチを本拠地とする「クルーセーダーズ※」の公式スポンサーとなりました。
※スーパーラグビーに参加するニュージーランドのラグビーチーム



美化活動

会津/高萩/久居/河芸工場での活動

東部大建工業(株)では、高萩工場/会津工場で、三重ダイケン(株)では、河芸工場/久居工場で周辺地域の除草や清掃、ゴミの分別回収などの美化活動を定期的に行っています。



周辺地域清掃風景(会津工場)

「第6回ふれあいエコウォーク」
「第7回セトウチ30kmウォーク」開催

2011年10月の井波大建工業(株)「第6回ふれあいエコウォーク」には総勢188名が、同じく10月のセトウチ化工(株)「第7回セトウチ30kmウォーク」には総勢141名が参加。ウォーキングをしながら、清掃活動に励みました。



第6回ふれあいエコウォーク

いい「ものづくり」はもちろん、
いい「職場環境づくり」も
大切にしています。



大阪本社ビル防災訓練への参加



業績表彰



労働組合定期大会



海外研修フライブルク旧市街



全日本社会人卓球選手権大会



住機製品事業部・井波大建工業(株)合同「納涼祭」

ワーク・ライフ・バランスの推進

○過重労働・長時間労働の削減

「ノー残業デー」の実施や業務改善を通じて、「残業をしない・させない」風土づくり・意識改革に励んでいます。

○連続年次有給休暇取得制度の定着化

有給休暇の取得を推進すべく、連続年次有給休暇取得制度を設けています。期初(年2回)に、この制度による休暇取得を計画させるとともに、一斉慰労休暇を年間2日から1日増やし、有給休暇の取得率の向上を図っています。

○仕事と育児・介護の両立を支援

育児・介護休業、子どもの看護休暇、育児・介護短時間勤務等の各種制度の整備・拡充を図り、働きやすい職場環境の整備に努めています。

業務改善活動の様子



◇業務の見える化による改善活動の事例

産業資材営業統轄部・産業資材業務課では、売上拡大に伴う業務量の増加に対応するため、徹底した現場観察を行い業務の見える化を進めた結果、伝票処理などの業務量が大幅に増加したにもかかわらず、人員を増やすことなく残業を含めた実働時間を削減することができました。

■活動8ヶ月後の業務効率の改善状況

伝票処理などの業務量	▲ 59%増
残業を含めた実働時間	▼ 23%減

ダイバーシティ推進への取り組み

○従業員の人権尊重

ハラスメントを防止するため、e-ラーニング教材を準備し、大建工業(株)の管理職全員に受講を義務付け、教育を行いました。(受講者数468名)

○女性社員の積極的登用

総合職の男女比率と同等の管理職の男女比率実現に向けて、女性社員に対し管理職としての指導育成の強化に取り組んでいきます。

○障がい者の雇用

障がい者の能力と適性に応じた雇用の場を提供し、ともに発展していける障がい者の雇用を進めています。

実績:2011年6月 1.84%

労働安全衛生

○安全活動の基本方針を共有化

2011年4月、「第35回ダイケンエンジニアリング(以下ダイケンEG)安全大会総会」が大阪YMCAホールで開催され、ダイケンEG安全衛生協力会会員およびダイケンEGスタッフの約250名が参加しました。

○「安全教育センター」を設置

2011年5月、岡山大建工業(株)では、安全教育をさらに効果的にするための拠点とすべく「安全教育センター」を設置しました。同センターでの研修は、協力会社も含めた全従業員を対象としています。



グローバルな視野を持つ人材へ ～環境をテーマに海外研修を実施

2011年7月9日～16日の8日間、海外研修委員会で選定された当社グループの12名が、世界でも環境への取り組みが先行しているドイツ(フライブルク)とフランス(パリ)を視察しました。



○本社大阪事務所でAED講習会開催

本社入口に設置されたAEDの操作方法や心肺蘇生法(心臓マッサージの実技)について理解を深めるため、2011年9月、AED講習会が本社大阪事務所で開催されました。

AED:自動体外式除細動器(Automated External Defibrillator)。心停止した患者に電気ショックを与え、蘇生させる医療機器。



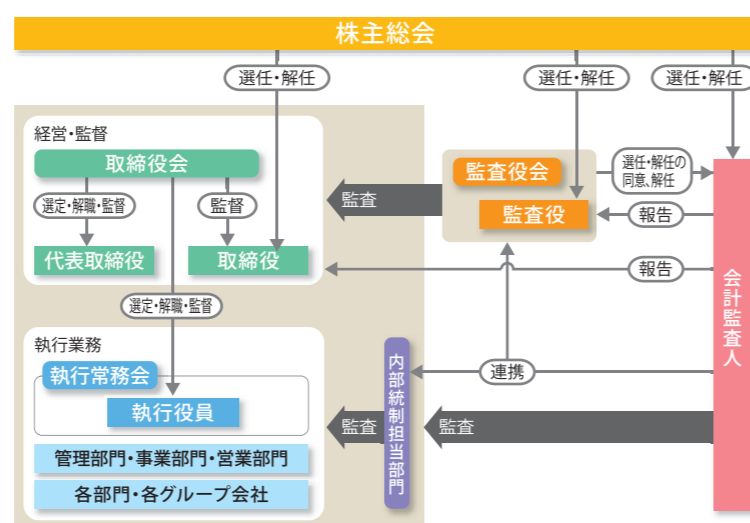
より効率的で、
透明性の高い経営のため、
様々な管理体制を整えています。



コーポレート・ガバナンス

企業価値の継続的増大を目指して、経営体制や経営組織を継続的に整備し、必要な施策を実施しています。取締役会は、経営に関する重要事項を決定するとともに、取締役の職務執行を監督。また、取締役会意思決定の迅速化、監督機能の強化のため執行役員制を採用し、執行役員は各社内規程に従って一定分野の業務執行に従事。業務の執行状況を執行常務会等に報告し、効率的な業務執行に努めています。

■コーポレート・ガバナンス体制



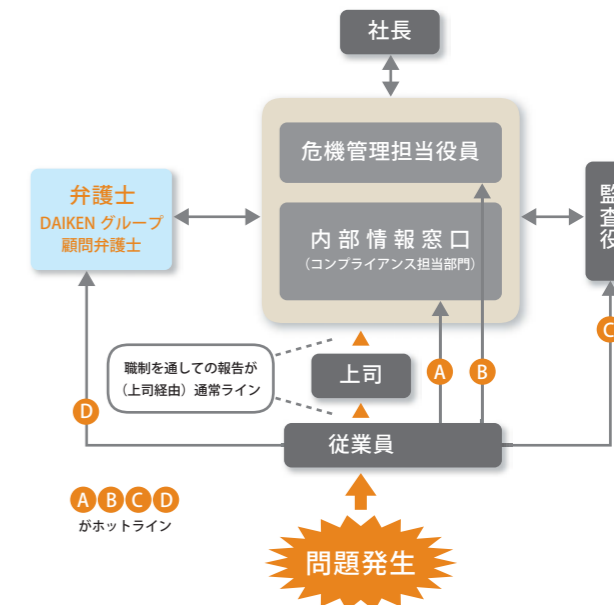
コンプライアンス

DAIKENグループでは、「経営理念」を具体化するための行動指針として「企業行動基準」を定め、役員・従業員一人ひとりがコンプライアンスにのっとった事業活動を展開しています。新入社員・管理職社員・部門長・役員などの階層別の研修メニューや年度ごとの重点テーマなどを設定し、意識・知識の継続的な向上を図っています。

○内部情報の報告(内部通報窓口)

法令や会社規則などの違反の未然防止ならびに早期発見に取り組むため、通常の職制を通じた報告が困難な場合の直通報告ルートとして、内部通報窓口(ホットライン)を設定しています。

■内部情報の報告フロー



リスクマネジメント

DAIKENグループでは、リスクを適切に管理し、事業の継続・安定的発展を確保するため、取締役会において「リスク管理規程」を定め、全社的なリスクマネジメントを推進しています。危機管理担当役員を委員長とする「リスク&コンプライアンスマネジメント委員会」を設置し、リスクの抽出・分析・評価を行い、重要度の高いリスクを「全社重要リスク」として優先的に対応しています。特に、2011年度は大規模地震などの災害リスクを主要なテーマと位置付け、BCP(事業継続計画)の策定に取り組みました。

○岡山エリアでBCP実地訓練開催 ～全従業員が緊張感をもって参加

2012年3月、祝日を利用して、岡山エリア全事業所(協力会社5社含む)の全従業員670名参加による、大規模なBCPの緊急事態総合防災訓練を実施しました。



○地震に備えて100名が訓練に参加 ～三重ダイケン(株)久居工場でBCP防災訓練

2012年3月、三重ダイケン(株)久居工場で地震を想定したBCP防災訓練を実施し、三重ダイケン(株)および内装材事業部の約100名の従業員が訓練に参加しました。



持続可能な社会の実現に向けて、
具体的な目標のもと活動しています。



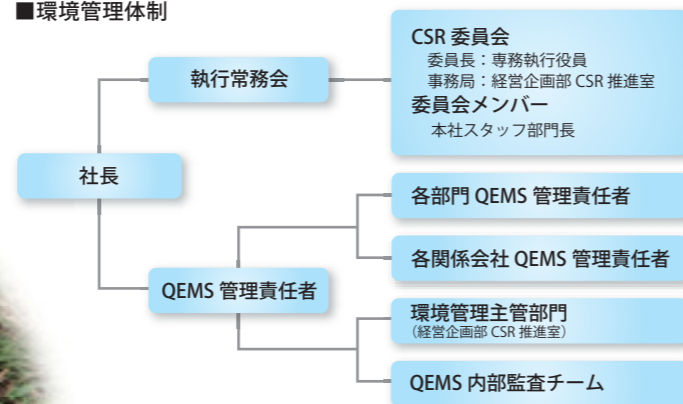
和歌山県社有林

地球資源は有限であり、
当社グループの事業活動は
その恩恵を受けていることを常に認識し、
これからも地球環境に配慮した
事業活動に取り組んでいきます。

環境マネジメント

DAIKENグループでは、環境経営はCSR経営の基本と位置付け、品質・環境マネジメントシステム(QEMS)を改善しながらグループ全体で統一かつ効率的に環境活動のレベルアップを図っています。

■環境管理体制



2012年4月 記念植樹

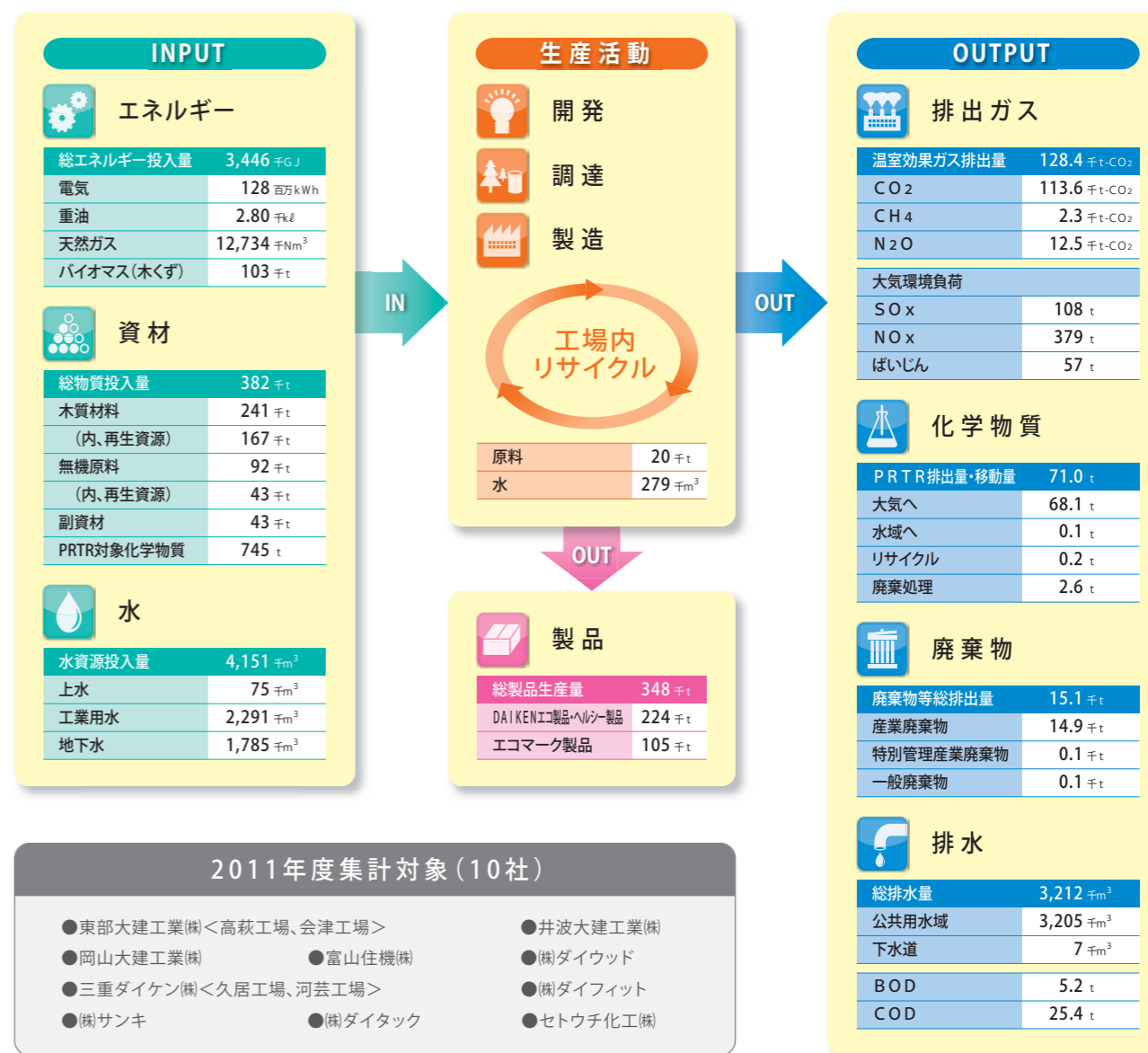
国内のISO認証統合

DAIKENグループ全体の環境管理体制をより強固なものとするため、2010年に大建工業(株)の本社・営業部門でISO9001と同時にISO14001認証を取得し、2012年1月に認証範囲を国内のグループ13社に拡大しました。今後、海外2生産拠点でのISO14001認証取得を進め、環境パフォーマンスを改善しています。

※ISO認証取得情報の詳細は、Webサイト「会社情報」に掲載しています。

生産活動における環境負荷

生産活動における環境負荷の全体像を把握し、その負荷低減に努めています。



中期環境計画(2011年度~2015年度)の活動目標と進捗結果

初年度となる2011年度の主な活動実績は以下のとおりです。

【自己評価】 : 目標以上 : ほぼ目標達成 : 未達成

取り組み内容	指標	2011年度の目標等	2011年度の実績	評価
1 環境配慮製品を拡大する。				
① 国産材を利用した製品開発を進める。	—	行政との連携強化	自治体との交流、各種団体や研究会との交流強化を図った。	
2 環境負荷低減				
1) 温室効果ガス排出量を削減する。 2020年度までに1990年度比25%削減する。				
① 物流・輸送部門の排出削減	エネルギー使用原単位* ※原単位=使用量÷輸送量	1%以上削減(2010年度比)	0.8%削減(2010年度比) 46.5kℓ/百万トンキロ	
② 事務部門の排出削減	CO ₂ 排出量	15%削減(2010年度比) 1,750t-CO ₂ 以下	10%削減(2010年度比) 1,860t-CO ₂ 以下	
2) 廃棄物排出量を削減する。				
① 生産拠点での排出削減	社外埋立量	10%削減(2010年度比) 4,330t	震災の影響により、24%増加 (2010年度比) 5,980t	
② 営業・事務部門での排出削減	廃棄物総排出量	10%削減(2010年度比) 1,760t	震災の影響により、17%増加 (2010年度比) 2,300t	
3) 化学物質の排出量を削減する。				
① PRTR**1対象化学物質を削減する。	PRTR対象化学物質の排出量・移動量	設備化検討 (2015年度目標12t以下)	脱塩化メチレン化を検討	
3 生物多様性配慮				
1) 生物多様性に配慮した木材資源の調達を推進する。				
① 合法性が確保された木材調達を確実にする。(仕組みを確立する。)	合法性木材の調達率	実態把握の仕組みづくりと定着 (2012年度目標 100%確保)	推進中	
② リサイクル材、国産材、植林木の調達を推進する。	使用比率	実態把握の仕組みづくりと定着 (2015年度目標 40%以上)		
③ 認証材等、管理された木材の調達を推進する。	使用比率	実態把握の仕組みづくりと定着 (2015年度目標 60%以上)		
2) グリーン調達ガイドラインを定着させる。				
① グリーン調達ガイドラインをサプライチェーンにまで適用し、業務に定着させる。	適用会社のカバー率	実態把握の仕組みづくりと定着 (2015年度目標 100%)	サプライチェーンへの適用を推進中	
4 環境管理				
1) 環境マネジメントシステム(EMS)を拡充・拡大する。				
① 国内拠点のEMS統合	ISO14001認証の統合・拡大	国内グループ会社13社**2を加えて、ISO認証を統合・拡大する。	2012年1月、ISO認証を統合・拡大	
② 海外の生産拠点のEMSを構築する。	ISO14001認証の取得	海外の生産2拠点**3にて取得準備 (2013年度中の認証取得)	取得に向けてキックオフ	
2) 環境法令の遵守を徹底する。				
① グループ全体に環境法令遵守の仕組みを構築し、運用する。	環境監査の計画立案・実施	QEMS内部監査、環境監査等により法令遵守が確認されている。	年2回QEMS内部監査実施	
3) 環境教育を全社展開し、推進する				
① 環境e-ラーニングによる教育を推進する。	環境教育の計画立案・実施	階層別、職種別に教育が実施されている。	新入社員研修、新任部門長研修、e-ラーニング等により実施	

※1 Pollutant Release and Transfer Registerの略で、化学物質排出移動量届出制度。有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組み。
 ※2 井波大建工業(株)、岡山大建工業(株)、東部大建工業(株)、富山住機(株)、(株)サンキ、(株)ダイタック、会津大建加工(株)、三重ダイケン(株)、(株)ダイウッド、(株)ダイフィット、セトウチ化工(株)、ダイケンホーム&サービス(株)、ダイケン物流(株)
 ※3 ダイケンミドリ社、ダイケンニュージーランド社

主な環境保全活動

2011年度の主な活動トピックスをご紹介します。

DAIKENグループの節電への取り組み

グループ全体で電気使用量2010年度比15%以上削減を目標に、節電対策を実施しました。夏季において、本社・営業所の事務所部門は前年比25%削減と目標を達成しました。生産拠点では、震災復興の資材供給のための増産を行ったため使用電力量は前年並みとなりましたが、東京・東北電力管内では、自家発電設備の活用や休日生産で対応し、ピーク電力の15%削減を実現しました。



社内啓発ポスターを制作



社内表彰を実施

○製造拠点での節電対策

- ・発電機を備える製造拠点での自家発電
- ・7月~9月の稼働日の組み替えや生産シフト替え
- ・照明等設備の省エネ化 など

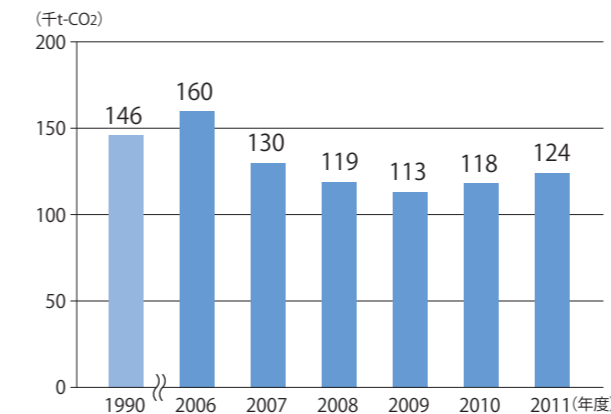
○事務所等営業拠点での節電対策

- ・一斉夏季休暇の増加
- ・エアコン設定温度の調節
- ・照明の間引きや無人エリアの消灯
- ・パソコンや機器類の不使用时の電源オフ徹底 など

地球温暖化防止

国内生産拠点における2011年度の温室効果ガス排出量は、生産量の増大と自家発電設備稼働による重油使用量の増大により、2010年度比5%増の12万4千トン-CO₂で、1990年度比15%削減となりました。

■生産拠点の温室効果ガス排出量の推移



※経年での比較を可能とするため、電力のCO₂排出係数は、各電力会社の2006年度実績公表値に固定し、各年度のCO₂排出量を算定。

ダイケン置“健やかくん”が高評価! ~「第56回木材加工技術賞」受賞

2011年5月、「木質系工業化量(健やかくん)」が、開発にご協力いただいた白川製紙(株)様と共同で、(社)日本木材加工技術協会の「第56回木材加工技術賞」を受賞しました。「インシュレーションボード(畳ボード)」と「健やかおもて」の開発・生産を通じて量文化の継承に大いに貢献していること、「木質系工業化量(健やかくん)」によって本格的な畳リサイクルシステムを可能にした点などが評価されました。



CSR活動の取り組み状況

2011年度の主な活動実績と2012年度の主な取り組みは以下のとおりです。

		【自己評価】😊:目標以上 🧡:ほぼ目標達成 🙄:未達成				
取り組み課題	2011年度の計画	2011年度の実施内容・結果	自己評価	2012年度の計画	関連頁	
経営分野	ガバナンス体制強化とコンプライアンスの徹底	・グループガバナンス体制の強化・維持・透明性の向上。(継続) ・コンプライアンス教育プログラムを体系化。(継続)	・改正開示府令に基づく情報開示の実施/取締役会の運営。 ・コンプライアンスに関するe-ラーニングを継続実施。	🧡 🧡	・継続実施 ・継続実施	P.23 P.24 マネジメント
	リスクマネジメントの推進	・BCPを策定し、事業継続マネジメント(BCM)活動に展開する。 ・海外でのリスクマネジメント体制を整備する。	・グループBCP策定ガイドラインの制定。 ・主要な事業・業務拠点でBCP策定。 ・海外展開において想定される重要リスクを抽出。海外事業部門に提示し、セルフチェックを開始。	🧡 😊	・BCP定着と継続的改善 ・海外拠点等への展開 ・海外展開において想定される重要リスクに対する対応策立案	
	ステークホルダーとのコミュニケーションの充実	・株主・投資家などとのコミュニケーションを促進する。(継続) ・ステークホルダーに対して、情報を適時、適切に開示する。(継続)	・決算説明会等により、株主・投資家とのコミュニケーションを図った。 ・主要取引先を対象に営業部のエリア毎に方針説明を継続実施。	🧡 🧡	・継続実施 ・継続実施	
社会分野	顧客・消費者とのコミュニケーションと顧客満足	・品質マネジメントシステム(QMS)を強化する。 ・国内拠点へのQMS展開 ・海外拠点の品質管理体制の強化 ・設計品質改善の研修の実施 ・製品のトレサビリティ体制を強化する。	・国内グループ会社13社を加えてISO認証を統合・拡大した。 ・関係部門と協議し、海外製品の品質保証のフローを制定した。 ・中堅開発担当者を対象とした設計・品質改善研修、開発担当責任者を対象とした開発マネジメント研修をそれぞれ実施した。 ・ダイレクトメールや取扱説明書等にてユーザー登録の促進を図った。(登録者数:636名)	🧡 🧡	・QMSの継続強化 ・登録促進策の継続実施	P.11 P.16 お客様の ために
	公正な取引の推進と徹底	・消費者目線の商品開発を推進する。 ・消費者との接点を拡大し、コミュニケーションを強化する。	・情報活用検討チーム会議にて、情報活用先に対する配信方法の向上等について検討。情報分析システムのデモ環境にて、使い勝手や有効性を検証。 ・ショールーム受付票を統一し、運用を開始。 ・ホームページの耐震ページ、天井材ページ、おもいやりページ等の消費者向けコンテンツを拡充した。	🧡 🧡	・接点(ショールーム・お客様センター・営業)情報活用の仕組み構築 ・商品データベース整備による製品情報のリニューアル。 ・エンドユーザー向けコンテンツの改訂、ポータルサイトの立ち上げ。	
		・下請けとの取引の適正化を徹底する。 ・反社会的勢力との取引排除を徹底する。	・各部門に対し、下請け取引の調査を実施し、取引が適正であることを確認した。 ・新規契約書に条項を加え、既契約分は新しい契約様式での再契約を推進する。各部門における契約書の洗い出しが完了した。	🧡 🧡	・教育・啓発を計画し、実施する。 ・契約書への条項追加完了。	
		・知的財産権保護の重要性を浸透させる。	・関係部署に対し、e-ラーニング、特許交流会、講習会等を通じて、知的財産に係わるリスク啓発、保護活動を推進した。 ・全ての販売・製造国を対象とした「DAIKEN(ロゴ)」商標網の出願指示・対応を推進した。	🧡	・継続実施	
	・グリーン調達を徹底し、CSR調達への展開を図る。	・グリーン調達の実態把握を行い、課題を整理した。	🙄	・グリーン調達ガイドラインの改定・運用		
	人材育成・人材保護・良好な職場環境づくり	・心身とも健康で働きやすい職場づくりを推進する。 ・過重労働、長時間労働を抑制する。 ・育児休暇取得を促進する。 ・法定障がい者雇用率を維持する。 ・管理職に対し、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントの教育を実施する。	・各部署への残業データの定期配信を実施し、勤怠管理システムでの残業データの確認機能を追加した。 ・育児介護休暇等に関する規定をいつでも見られるよう開示し、制度の周知と取得推進を図った。 ・障がい者雇用のための求人活動の継続実施。 ・管理職を対象に、e-ラーニングによる教育を実施した。	🧡	・継続実施	
		・総合的な人材育成プログラムを再構築する。 ・女性社員の適材適所への登用を進める。	・教育体系の見直しを実施。 ・女性社員の適材適所への登用を進めた。	🧡 😊	・新任役職者アカウンティング研修の企画立案 ・開発リーダー育成 ・女性社員へ管理職としての指導育成を強化	
・安全診断のレベルアップを図り、実施する。		・チェックリストを見直し、リスクアセスメントに関する項目を追加し、安全診断を実施した。(国内9社11工場、海外3工場) ・休業災害(国内) 1件	🧡	・チェックリストにBCPを追加し、継続実施		
地域社会との交流や貢献活動の充実	・エコ素材の生産・供給を通じて震災復興に貢献する。	・「復興支援室」を仙台に設置し、被災地の要望に対する対応強化を図った。 ・断熱ボード寄贈/義捐金寄付	🧡	・現地拠点の強化 ・伊藤忠グループ社員の震災ボランティア活動に参画	P.17 P.20 地域社会 のために	
	・節電対策を立案し、実行する。	・国内グループ全社を対象に、夏季節電対策を計画し、実施した。 実施期間:平成23年5月~9月 事務部門 前年比22%削減、生産部門 0.2%削減 ・10月以降も継続実施。	😊	・継続実施		
	・生産拠点と地域のコミュニケーション・交流を活発にする。	・地域に密着したリモデルフェアを開催(高萩、井波、岡山)。 ・ウォーク大会を企画し、清掃活動を実施(井波、岡山)。 ・工場見学会を継続実施(井波、高萩、久居)。	🧡	・継続実施		
	・地元の森林組合の協力の下、社有林地にて植林活動を継続実施。	・地元の森林組合の協力のもと、植林体験見学会を計画(和歌山)。	🧡	・継続実施		
	・マレーシアにて植林活動を継続実施する。	・総植林面積4,250ha(2012年3月末)	🧡	・継続実施		
環境分野	・生物多様性の保全活動の一環として、「ボルネオ島の熱帯林再生及び生態系の保全プログラム」に継続参画。	・継続参画	🧡	・継続参画	P.25 P.28	
	・新中期環境計画(2011年度~2015年度)にて目標展開。	・P27Iに取り組み結果を記載。	😊~🧡	・継続実施		

会社概要 (平成24年7月) — 詳しくは、当社ホームページをご覧ください。

商号	大建工業株式会社 DAIKEN CORPORATION
設立年月日	1945年(昭和20年)9月26日
資本金	131億5,003万9,080円
決算月	3月
ホームページ	http://www.daiken.jp/
本社および事業所	
本店	富山県南砺市井波1番地1
本社大阪事務所	大阪市北区堂島1丁目6番20号
東京事務所	東京都千代田区外神田3丁目12番8号
住まいのショールーム	札幌、仙台、新潟、宇都宮、東京、長野、金沢、名古屋、大阪、岡山、広島、高松、福岡
海外事業所	上海、シンガポール、ソウル、台北
国内生産工場	東部大建工業(株)(茨城県高萩市、福島県会津若松市) 井波大建工業(株)(富山県南砺市) 岡山大建工業(株)(岡山市) 富山住機(株)(富山県砺波市) (株)ダイウッド(三重県伊賀市) 三重ダイケン(株)(津市) (株)ダイフィット(鳥取県倉吉市) (株)サンキ(富山県高岡市) (株)ダイタック(岡山市) セトウチ化工(株)(岡山市)
海外生産工場	大建工業(寧波)有限公司(中国) DAIKEN NEW ZEALAND LIMITED(ニュージーランド) DAIKEN MIRI SDN.BHD.(マレーシア) DAIKEN SARAWAK SDN.BHD.(マレーシア)

